

## 会よりのお知らせ

### 光関連の国際学術誌「OPTICAL REVIEW」刊行について

日本光学会(応用物理学会) 前幹事長 一岡 芳樹

日本の幅広い光関連の研究とその質の高さは国際的に認められており、また、光学を背景とした産業も世界に冠たるものがあります。このように日本は光の研究、光関連産業に関しては大国であるのにもかかわらず、海外の研究者からは、日本の研究の海外への紹介が、不十分であるという大きな不満の声がきかれ、技術摩擦、文化摩擦の原因となっています。これは日本に光関連の研究をまとめて紹介しうる専門の国際学術誌がなかったことに起因していました。

光関連の国際学術誌の発刊は、日本の光関連の研究者、技術者にとって待望久しいもので、日本光学会の永年の懸案事項でもあります。この要望に応えるべく日本光学会では1991年からこの問題を取り組み、当初「光学」編集委員会内の小委員会で検討を進めていました。1992年からは、日本光学会の幹事会で取り上げ、英文誌刊行検討諮問委員会の数度に亘る討議を経て趣意書を作成し、1993年3月の応用物理学会理事会で趣旨説明をいたしました。以後、応用物理学会でも慎重に審議されてきましたが、1993年11月の応用物理学会理事会において日本光学会の新規事業として光関連の新しい国際学術誌「OPTICAL REVIEW」の刊行に関する理解と合意がえられ、日本光学会が相応の努力をするという条件のもとで財政的に支援して頂くことになりました。現在、1994年9月の Vol. 1, No. 1 発刊に向けて関係者一同銳意努力しております。

新しく刊行する「OPTICAL REVIEW」は、21世紀の光関連分野の発展をリードする国際学術誌であり、光学大国日本の日本光学会(応用物理学会)が責任をもって編集、発行し、国内光関係の研究者はもとより世界の研究者に向けて発表の場を提供するものであります。

新しい国際学術誌の性格は、

- 1) 国際性(英語による論文記述)
- 2) 高いレベルの論文の掲載
- 3) サーキュレーションのよさ
- 4) 迅速な査読(JJAPに準ずる)
- 5) 投稿から出版までの期間の短縮(JJAPに準ずる)

を特徴としたものです。

さらに、「OPTICAL REVIEW」の刊行により、1)海外に対して、日本の光関連の研究論文の紹介が迅速に行え、技術摩擦、文化摩擦の解消に役立つ、2)投稿から出版までの期間短縮により博士課程の大学院学生や若い研究者の学位取得に役立つ、3)環太平洋地域から発信する国際学術誌であり学会が目指している国際的な学術発展に貢献する、という点からも意義深いと思われます。

「OPTICAL REVIEW」は次のような方針のもとに編集、運営致します。

#### 1. カバーする範囲: 光関連の全分野

光関連の研究分野は、21世紀においても応用物理の基礎学問分野の一つであり、他の学問領域との関連もさらに多岐に亘ることが予測される。光学、応用光学、量子エレクトロニクス、光エレクトロニクス、フォトニクス、光物性、分光、照明、薄膜、視覚・色彩、画像工学、情報光学、光装置、光技術、光計測・センシング、光記録・メモリ、天文・宇宙光学、環境光学、X線などおよそ

光に関する論文は、基礎から応用まで、また学界から産業界までなるべく広い範囲の研究者からの投稿を歓迎します。本ページ下欄に「OPTICAL REVIEW」のスコープを掲げます。

## 2. 編集方針：良い論文をスピーディに提供

編集委員は、現在海外の学術誌においても活躍中の研究者を中心に依頼し、また、世界各国の光関連の主要な研究者に International Advisory Board Memberへの就任を要請しています。編集は投稿論文、技術論文主体で進めますが、当初立ち上げ時には依頼論文で盛り上げて行く予定です。さらに、英文の質を良くする目的で、JJAP 並みの native speaker による校閲を行うことにしております。

スピーディな出版の基本は、効率的な出版局の選定と、編集、査読、校閲関係者の「時間短縮意識」の徹底にあります。フルペーパーの他にレターを混載して出版スピードをアピールするつもりです。特に、学術誌の出版が軌道に乗ってからは、フルペーパーで投稿から受理まで3ヶ月、出版まで5ヶ月を目指す。レターの場合には、投稿から出版まで3ヶ月を厳守する予定です（現在の『光学』誌並み）。

## 3. 運営方針：健全経営の励行と国際性

運営の基本方針は「健全経営」ですが、問題は財政的に安定するまでの数年間の立ち上げ期です。初めの3年間、応用物理学会の財政的支援をお願いしておりますが、当初から一定のサーキュレーションを確保するために、JJAP の立ち上げにならって、日本光学会の会員全員に配布することとし、内外の図書館には積極的に購読することを依頼していきます。安定した機関購読数を確保出来たときが、財政的に独立可能な時期と思われます。

当初、隔月刊から始めますが、次第に月刊、隔週刊へと発展させるつもりです。国際誌としての立ち上げをスムーズにするために、本年4月、日本で開かれた ICO (国際光学委員会) の場で、新国際学術誌の発刊の PR と論文投稿を依頼しました。なお、Vol. 1, No. 1 & 2 は ICO '94 の発表論文をレター論文として投稿されたものを中心収録します (Proceedings は出さない)。一般投稿論文は、1995 年発行の Vol. 2 から掲載する予定です。また、和文『光学』誌は日本光学会の会誌として、当面独立並行して編集発行することにしております。

「OPTICAL REVIEW」初代の編集委員長には、JJAP での編集経験が豊富な本会会員伊藤良一東大教授にお願い致します。本国際学術誌を成功させるために、会員の皆様方の絶大なご支援とご協力をお願い致します。なお、本号巻末綴込みの「OPTICAL REVIEW」のパンフレットもご覧ください。

### Scope of OPTICAL REVIEW

#### General and Physical Optics

Diffraction and gratings; Interference; Polarization; Scattering; Propagation and reflection;  
Statistical optics; Random media; Geometrical optics

#### Quantum Optics and Spectroscopy

Photon optics; Ultrafast phenomena; Squeezed states; Short-pulse lasers; Laser spectroscopy;  
Applied spectroscopy; Spectroscopic instruments

#### Information Optics

Optical information processing; Optical computing; Optical data storage; Image display; Holography;  
Optical neural networks; Optical interconnections; Image processing, Optical signal  
processing; Tomography; Image synthesis; Image evaluation; Computational optics

#### Photonics and Optoelectronics

Modulators; Detectors; Integrated optics; Fiber optics, Waveguide optics; Microoptics; Binary  
optics; Optoelectronic components and devices; Optical communication

*Lasers*

Gas, solid state, and semiconductor lasers; Chemical, excimer, dye, and free-electron lasers;  
Novel lasers; Laser applications; Material processing

*Nonlinear Optics*

Harmonic generation; Wavelength conversion; Optical bistability; Phase conjugation; Photorefractive phenomena; Nonlinear optical materials

*Optical Systems and Technologies*

Optical design; Imaging systems; Intelligent optical systems; Unconventional optical systems;  
Interferometry; Optical metrology; Optical sensing; Microscopy; Adaptive optics; Spectral imaging system; Velocimetry

*Optical Materials and Manufacturing Technologies*

Optical materials; Thin films; Coating; Surface finishing; Lithography; Nanometer optics

*Environmental, Biomedical and Space Optics*

Environmental optics; Lidar and remote sensing; Ocean optics; Biomedical optics; Optics in biology; Optical medical instruments; Astronomical optics; Space optics

*Vision*

Vision; Color; Visual optics; Machine vision; Ophthalmoscopy

*Far Infrared and Short Wavelength Optics*

Far infrared, ultraviolet, and X-ray optics; Related technologies

*Others*

### 光関連の国際学術誌

### 「OPTICAL REVIEW」

#### —論文募集—

新しい光関連の英文国際学術誌「OPTICAL REVIEW」が、日本光学会から1994年9月に刊行の運びになります。本誌は光関連の独創性に富んだ新しい情報を国際規模で迅速に刊行すべく企画されております。Vol. 1(1994)は本年4月に京都で開催された ICO '94 の発表演題から投稿された論文を掲載し、Vol. 2(1995)以降に一般投稿論文を掲載していくことになります。一般投稿論文の受け付けは、1994年6月1日より開始します。論文はFull Paper および Letter Paper のいずれも受け付けます。原稿の作成要領は、以下の記事および「Jpn. J. Appl. Phys.」(毎年1月号または7月号)の Notes to contributors を参照してください。

皆様の活発な論文投稿をお待ちしております。

論文投稿宛先：〒113 東京都文京区弥生 2-4-16

(財)学会誌刊行センター内

OPTICAL REVIEW 編集委員長 宛

### OPTICAL REVIEW

#### Instructions for Preparation of Manuscript

**General Instructions** A manuscript should consist of the following in the order given: the title, the author's names and their affiliations, the abstract, keywords, the main body of the paper, the appendix

if any, references, captions for figures, and the tabular material. The manuscript should be neatly typed, double spaced, with margins of at least 2 cm on the left and right sides, on white bond paper, on one side of the sheet only. The size of the paper should be A4 or US letter size.

**Title, Author's names and Affiliations** The title, the author's names and their affiliations should be typed on the first page.

**Abstract** The length of the abstract should be no more than 14 lines for a regular paper, 10 lines for a letter and 7 lines for a short note; in all cases with space set for 65 characters per line. Abstract should be typed on the second page of text.

**Keywords** Keywords, 5-10 in number, should be typed on the next line after the author's abstract, starting with the headline KEYWORDS:

**Main Body of the Text** The main body of the text should start on the third sheet of the paper. Authors are encouraged to use the International System (SI) of units where appropriate.

**References** References should be indicated in the text by superscript numbers followed by a parenthesis such as<sup>1, 2, 3</sup> and<sup>4-8, 11</sup>. For the proper form, see the following examples.

Journals:

- 1) H. Kitajima and K. Hera: Jpn. J. Appl. Phys.  
30 (1991) L 123.

Books:

- 2) E. Podolsky and G. Borman: *Plasma Acceleration*, eds. S. W. Kash and J. Doe (MacGraw-Hill, New York, 1982) 2nd ed., Vol. 1, Chap. 2, p. 70,

**Conf. Proc :**

- 3) T. Kobayashi : *Proc. 18th Int. Conf. Low Temperature Physics, Kyoto, 1987*, Jpn. J. Appl. Phys. **26** (1987) Suppl. **26**-3, Pt. 1, p. 201.

**Patent :**

- 4) A. C. Smith : U. S. Patent 330940 (1968).

**Tables and Figures** Tables should be numbered consecutively in the order of their appearance in Roman numerals. They should be typed on separate sheets, and each caption should be typed above the table with which it belongs. Figures should be separately drawn in Indian ink on heavy bond paper or cloth. The size of the paper should be the same as the text. Smaller figures and photographs should be pasted on paper of this size. They should be numbered consecutively in Arabic numerals and have suitable, self-explanatory captions. All figure captions should be listed on a separate sheet, not on a figure. The desired locations of figures and tables should be indicated in red ink in the margin of the text. Printing in color should be requested by marking "color printing" in the margin in red. For detailed instructions on the preparation of figures, consult the *AIP Style Manual* issued by the American Institute of Physics.

**Acknowledgments and Appendix** Acknowledgments follow the main text of the paper and precede appendixes, if any, and the list of references.

For more details, refer to "Notes to Contributors" in the January and July issues of *Japanese Journal of Applied Physics*.

PLEASE SEND THE COMPLETED FORM WITH YOUR MANUSCRIPT TO :

Editor-in-Chief, OPTICAL REVIEW  
c/o Center for Academic Publications Japan  
2-4-16, Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo, 113 Japan  
FAX : +81-3-3817-5830

(Please do not send us your manuscript by Fax.)

## ○平成 6 年度総会

平成 6 年度総会は平成 6 年 3 月 29 日 (火) に川崎市生田の明治大学生田校舎において開催されました。幹事長挨拶に続き、下記の平成 5 年度事業報告、平成 6 年度事業計画、平成 5 年度決算報告および平成 6 年度予算が提出され承認されました。引き続き新幹事長の挨拶があり、以上で総会を終了しました。また、同日総会に先立ち同会場で、平成 5 年度光学論文授賞式が行われ、宮永滋己氏（室蘭工業大学）が受賞されました。総会終了後、宮永氏により光学論文賞受賞記念講演が行われました。

## ○平成 5 年度事業報告

(平成 5 年 1 月 1 日～平成 5 年 12 月 31 日)

### 1. 会誌の発行

「光学」 (KOGAKU, Japanese Journal of Optics)  
Vol. 22, No. 1~12

### 2. 光学論文賞、日本光学会奨励賞

光学論文賞授賞 1 名、日本光学会奨励賞授賞 2 名

### 3. 講演会、講習会

参加者数

第 19 回冬期講習会 「光計測技術の最前線—光極限

計測をめざしてー」 1 月 26 日～27 日 75 名

第 26 回光学五学会関西支部連合講演会 「イメージ  
の創造と表現」 2 月 5 日 92 名

第 18 回光学シンポジウム 「光学系および光学素子  
の設計、製作、評価を中心にして」

6 月 7 日～8 日 261 名

第 30 回記念サマーセミナー 「21 世紀を担う新しい  
光学の基盤技術」 8 月 25 日～27 日 71 名

光学連合シンポジウム旭川 '93 (JAPAN OPTICS  
'93) 9 月 25 日～26 日 252 名

### 第 10 回色彩工学コンファレンス

10 月 27 日～28 日 240 名  
(他にチュートリアル 64 名)

平成 5 年度関西講演会

11 月 17 日 50 名

平成 5 年度北陸講演会

11 月 19 日 41 名

平成 5 年度光学名古屋講演会

12 月 3 日 61 名

第 24 回画像工学コンファレンス

12 月 8 日～10 日 447 名

### 4. 研究グループ

視覚、ホログラフィックディスプレイ、微小光学、光  
コンピュータ、イメージ・サイエンス、位相共役・光  
波ミキシング、光設計、コンテンポラリーオプティク  
ス

### 5. 幹事会、委員会

幹事会 2 回

常任幹事会 5 回

編集委員会 8 回

文献抄録委員会 6 回

文献抄録委員会 (関西) 3 回

国際学術交流諮問委員会

欧文誌刊行検討諮問委員会

学術講演会諮問委員会

将来問題検討諮問委員会

### 6. 会員数 平成 5 年 12 月 31 日現在 (( ) 内は昨年度)

A 会員 771 名 (751 名)

B 会員 1,256 名 (1,214 名)

特別会員 142 名 (139 名)

賛助会員 86 社 152 口 (89 社 155 口)

## ○平成6年度事業計画

(平成6年1月1日～平成6年12月31日)

## 1. 会誌の発行

「光学」(KOGAKU, Japanese Journal of Optics)  
Vol. 23, No. 1～12

## 2. 欧文誌の発行

「OPTICAL REVIEW」 Vol. 1, No. 1～2

## 3. 光学論文賞, 日本光学会奨励賞

## 4. 講演会, 講習会

第20回記念冬期講習会 「フレッシュマンのための

現代光学」 1月 25日～26日 89名

第27回光学五学会関西支部連合講演会 「光と色からみた環境の分析と設計」 2月 4日 71名

第19回光学シンポジウム 「光学系および光学素子

の設計, 製作, 評価を中心にして」

6月 9日～10日

第31回サマーセミナー 8月 24日～26日

光学連合シンポジウム浜松'94 (JAPAN OPTICS  
'94) 9月 22日～23日

第1回カラーフォーラムジャパン 10月 26日～28日

平成6年度関西講演会

平成6年度北海道講演会

平成6年度光学名古屋講演会

第25回画像工学コンファレンス 12月 7日～9日

## 5. 研究グループ

視覚, ホログラフィックディスプレイ, 微小光学, 光コンピュータ, イメージ・サイエンス, 位相共役・光波ミキシング, 光設計, コンテンポラリーオプティクス, 近接場光学

## 6. 幹事会, 委員会

幹事会 3回

常任幹事会 3回

「光学」編集委員会 8回

文献抄録委員会 7回

文献抄録委員会(関西) 3回

「OPTICAL REVIEW」編集委員会

「OPTICAL REVIEW」運営委員会

将来問題検討諮問委員会

## ○平成5年度会計決算報告

平成5年1月1日～12月31日

大科 目	中科 目	金額(円)	内 容(金額記入)
(収入の部)			
会 費 収 入		12,775,585	
	会 費 収 入	12,775,585	
事 業 収 入		15,022,850	
	講習会研究会収入	6,862,400	サマーセミナー 2,871,400, 冬期講習会 1,815,000 光学連合シンポ 1,252,000, その他 924,000
	会誌出版事業収入	8,160,450	別刷代収入 1,980,450, 広告料収入 6,180,000
	そ の 他 事 業 収 入		
雜 収 入		706,172	
	受 取 利 息	424,148	
	雜 収 入	282,024	バックナンバー, 資料コピー代
引 当 金 戻 入		197,625	
	回収不能引当金戻入	197,625	
繰 入 金 収 入		10,177,900	(他会計よりの受入金)
	分科会賛助会費還元金	4,608,000	$40,000 \times 80\% \times 144$ 口
	分科会給与補助	5,569,900	学会担当者分
当 期 収 入 合 計		38,880,132	

前期繰越収支差額		2,959,465	
収入合計		41,839,597	
(支出の部)			
講習会研究会事業費		6,436,689	サマーセミナー 2,541,054/冬期講習会 1,382,568/ 光学連合シンポ 1,113,610/その他 1,399,457
臨時雇賃金	150,000		アルバイター手当 0/0/30,000/120,000
印刷製本費	1,926,781		271,090/599,804/326,767/729,120
諸経費	4,359,908		会議費 623,947/113,953/481,498/161,432, 貸借料 117,200/0/0/3,700, 旅費交通費 974,449/101,500/ 68,310/115,040, 諸謝金 488,883/488,000/94,443/ 216,885, 通信運搬費 57,600/77,510/82,382/ 34,504, 雑費 7,885/515/3,296/618, 消耗品費 0/ 1,286/26,914/18,158
会誌出版事業		21,295,435	
印刷製本費	15,386,811		
発送通信費	2,194,678		
諸経費	3,713,946		会議費 358,239, 旅費交通費 1,208,910, 通信運搬 費 304,008, 消耗品費 0, 貸借料 51,520, 編集委 託費 1,236,000, 諸謝金 522,000, 雑費 33,269
その他事業費		313,750	
助成金支出	313,750		関係先補助金等, 研究グループ
管理費 (含幹事会)		8,407,518	
給料手当	5,569,900		学会担当者負担
印刷製本費	266,988		諸印刷費, 資料コピ一代
賃借料	30,000		
諸経費	2,152,530		臨時雇い賃金 0, 会議費 148,877, 旅費交通費 1,414,890, 消耗品費 38,259, 通信運搬費 257,920, 諸謝金 0, 雑費 283,084, 消費税 0, 振替手数料 9,500
回収不能引当金	388,100		
繰入金支出		2,201,200	(他会計への支出額)
学事務費	2,201,200		事務手数料
予備費		0	
当期支出合計		38,654,592	
当期収支差額		225,540	
次期繰越収支差額		3,185,005	

## ○平成6年度会計予算

大科目	中科目	金額(千円)	内 容 (金額記入)
(収入の部) 会費収入		21,420	
	会費収入	21,420	A・B会員 1,900名×9,600円, 学生会員 100名 ×6,000円, 特別会員 172口×15,000円

事 業 収 入		24,040	
講 習 会 収 入		2,420	冬期講習会 540, サマーセミナー 1,880
研 究 会 収 入		2,520	光学連合シンポジウム 1,600, 光学シンポジウム他 920
会誌出版事業収入光学		8,900	別刷代収入 2,900, 広告料収入 6,000
会誌出版事業収入欧文誌		10,200	図書館購読料 2,000, 投稿料 2,400, 別刷代その他 800, 一般会計より補助金 5,000
雜 収 入		300	
受 取 利 息		200	受取利息
雜 収 入		100	バックナンバー 100, 資料コピー代 0
繰 入 金 収 入		10,770	(他会計よりの受入金)
分科会賛助会費還元金		4,832	40×80%×151 口
分 科 会 給 与 補 助		5,938	学会担当者分
当 期 収 入 合 計		56,530	
前期繰越収入差額		1,460	
収 入 合 計		57,990	
(支出の部)			
講 習 会 事 業 費		4,193	冬期講習会 435/サマーセミナー 1,427/光学連合シンポジウム 1,486.5/光学シンポジウムその他講演会 844.5
臨 時 雇 賃 金		150	アルバイト一手当 0/10/105/35
印 刷 製 本 費		1,280	30/290/660/300
諸 経 費		2,763	旅費交通費 370, 会議費 570, 諸謝金 1,140, 賃借料 220, 通信運搬費 338, 消耗品費 35, 雑費 90
会誌出版事業費 光 学		24,615	
印 刷 製 本 費		17,000	会誌
発 送 通 信 費		3,510	発送通信費
諸 経 費		4,105	旅費交通費 1,230, 会議費 195, 諸謝金 800, 賃借料 35, 通信運搬費 455, 消耗品費 0, 雑費 50 編集委託費 1,340
会誌出版事業費 欧文誌		12,834	
印 刷 製 本 費		8,000	会誌
発 送 通 信 費		2,500	発送通信費
諸 経 費		2,334	旅費交通費 350, 会議費 100, 諸謝金 160, 賃借料 0, 通信運搬費 50, 消耗品費 0, 雑費 20, 編集委託費 900, 英文校閲料 754
そ の 他 事 業 費		630	
補 助 費		630	関係先補助金等 研究グループ 450 (50×9 グループ), 論文賞他 180
名 簿 作 成 費		0	

管 理 費 (含 幹 事 会)		8,990	
賃 借 料		0	
印 刷 製 本 費		200	諸印刷費 180, 資料コピー代 20
給 与 手 当		5,938	学会担当負担分
諸 経 費		2,602	旅費交通費 1,460, 会議費 170, 諸謝金 0, 消費税 180, 通信運賃 442, 消耗品費 40, 雜費 240, 臨時雇賃金 60, 振替手数料 10
回 収 不 能 引 当 金		250	
繰 入 金 支 出		2,181	(他会計への支出額)
學 会 事 務 費		2,181	事務手数料 1,373, 配布誌実費(賛助会員分) 735, 講習会手数料 73
予 備 費		200	
当 期 支 出 合 計		53,643	
当 期 収 支 差 額		2,887	
次期繰越収支差額		4,347	

## ○平成 6 年度「OPTICAL REVIEW」運営委員

平成 6 年度「OPTICAL REVIEW」運営委員は次の方々に決定いたしました。

委員長 朝倉 利光(北大電子研)

前委員長 一岡 芳樹(阪大工)

委 員

伊藤 良一(東大工) 永壽 伴章(機械技研)

大木 裕史(ニコン) 岡田 佳子(電通大電通)

尾島 正啓(日立) 小団扇 平(リコー)

佐藤 平八(防衛大) 徳光 純(キヤノン)

豊岡 了(埼玉大工) 中島 俊典(理研)

西田 信夫(NEC)

T.H. Barnes(Auckland 大)

百村 和司(オリンパス) 南 正名(東芝)

盛永 篤郎(東理大理工) 吉田 貞史(電総研)

## ○平成 6 年度「OPTICAL REVIEW」編集委員

平成 6 年度「OPTICAL REVIEW」編集委員は次の方々に決定いたしました。

委員長 伊藤 良一(東大工)

副委員長 一岡 芳樹(阪大工)

大塚 喜弘(北大工)

委 員

朝倉 利光(北大電子研) 池田 光男(東大工)

伊藤 弘昌(東北大通研) 大木 裕史(ニコン)

大津 元一(東工大総理工) 河田 聰(阪大工)

木村 達也(NTT) 五神 真(東大工)  
小林 哲郎(阪大基礎工) 塩野 照弘(松下電器)  
竹内 延夫(千葉大映像セ) 武田 光夫(電通大電通)  
辻内 順平 角田 義人(日立)  
中塚 正大(阪大レーザー) 西田 信夫(NEC)  
前田 三男(九大工) 南 正名(東芝)  
谷田貝豊彦(筑波大物理工) 山口 一郎(理研)  
山本 公明(オリンパス) 覧具 博義(NEC)

## ○日本光学会のロゴ決定のお知らせ

1993 年 9 月より公募してまいりました日本光学会のロゴが以下のように決定しました。



応募作品の中より、柳澤正明、赤羽 純両氏((株)ニコンカメラ設計部デザイン課)による案が採用されることになり、日本光学会の一部修正の希望をとり入れて完成したものです。このロゴは、欧文誌「OPTICAL REVIEW」の表紙にも使われることが決まっており、今後その他の学会活動などに使用していく予定です。

## ○平成 5 年度第 4 回常任幹事会

平成 6 年 3 月 24 日(木)に東京、一番町の日本写真機光学機器検査協会会議室において開催され、庶務、会計、「光学」の編集、講演会・講習会の経過、各研究グループの事業報告・計画、欧文誌刊行などについて報告と審

議が行われました。

### ○平成5年度第6回編集委員会

平成6年3月11日(金)に東京、本郷の山上会館において開催され、論文投稿および審査状況、「光学」各号の編集状況と企画などについて報告と審議が行われました。新旧編集委員引き継ぎを兼ねた委員会でもあり、委員会終了後幹事長および新幹事長を交えて懇親会が催されました。

### ○第19回光学シンポジウムのお知らせ

1994年6月9日(木)、10日(金)に東京、六本木の東京大学生産技術研究所において、「光学系および光学素子の設計、製作、評価を中心にして」をテーマとして開催される光学シンポジウムのプログラムが決定いたしました。詳細は本号346ページ掲載の案内をご覧ください。

### ○第31回サマーセミナーのお知らせ

平成6年8月24日(水)～8月26日(金)に静岡県浜名郡舞阪町の浜名荘において、「マルチメディア時代における光技術の役割」をテーマに日本光学会主催のサマーセミナーが開催されます。詳細は本号348ページ掲載の案内をご覧ください。参加ご希望のかたはお早めにお申込みください。申込み締切は6月30日(木)です。

### ○第1回カラーフォーラムジャパン論文募集のお知らせ

1994年10月26日(水)～10月28日(金)に東京、西新宿の工学院大学・大ホールにおいて開催予定の第1回カラーフォーラムジャパンの論文を募集いたします。本号巻末綴じ込みの論文募集をご覧の上、お早めにお申込みください。なお応募締切は7月26日(火)です。

### ○第25回画像工学コンファレンス論文募集のお知らせ

1994年12月7日(水)～9日(金)に東京、芝公園のABC会館ホールにおいて開催予定の第25回画像工学コンファレンスの論文を募集いたします。本号巻末綴じ込みの論文募集をご覧の上、お早めにお申込みください。なお、応募締切は7月15日(金)です。

### ○光コンピュータ研究グループよりのお知らせ

- 第64回光コンピュータ研究会(夏合宿)のお知らせ  
期　　日：1994年7月7日(木)～9日(土)

場　　所：伊豆長岡健保長岡保養所「けんば長岡」

静岡県田方郡伊豆長岡町田端 174

テ　　マ：2001年に実現される光コンピュータ/インタコネクションの姿

内　　容：光コンピューティング用3次元積層光素子、空間多重光インタコネクション用面型多機能素子、他

定　　員：50名

参　　加　費：一般会員30,000円、非会員35,000円

大学・公立研究所会員21,000円、非会員25,000円

学生会員18,000円、非会員19,000円

会員とは、日本光学会会員、電子情報通信学会会員に限ります。参加費には宿泊費16,000円が含まれます。

申込方法：下記申込書請求先に申込書を請求してください。折返し、申込書と参加費の振込用紙をお送りします。申込後の参加取消の際の払い戻し、部分参加の割引はありませんのでご了承ください。

申込書請求先：〒305 つくば市梅園 1-1-4

電子技術総合研究所光情報研究室 森 雅彦  
電話 0298-58-5623

e-mail : e8612@etlrips.etl.go.jp

内容問合せ先：〒216 川崎市宮前区宮崎 4-1-1

NEC 光エレクトロニクス研究所  
光装置研究部 河合 滋  
電話 044-856-2107 Fax 044-856-2224  
e-mail : kawai@oel.cl.nec.co.jp

### ○光設計研究グループよりのお知らせ

●第3回研究会の予定

テ　　マ：「光リソグラフィの最先端」

日　　時：1994年7月19日(火) 13:00～17:30

懇親会 17:30～19:30

場　　所：(株)日立製作所中央研究所講堂

東京都国分寺市東恋ヶ窪 1-280

JR 中央線国分寺駅下車徒歩10分

内　　容：1) エキシマステッパー

松本宏一(ニコン)

2) 反射光学系

(未定)

3) 極紫外光源

渡部俊太郎(東大物性研)

- 4) 極紫外ガラス材料  
藤ノ木朗（信越石英）
- 5) X線光学系  
永田 浩（ニコン）
- 6) ULSI トレンド（最新の国際学会動向  
review 含）  
岡崎信次（日立）

参加費：会員 2,800 円（学生会員無料），  
一般 8,000 円，学生 2,000 円

参加申込先：〒192 東京都八王子市石川町 2970  
コニカ（株）光学開発センター  
大田耕平  
Fax 0426-44-5212

問合せ先：（株）日立製作所中央研究所  
立野 公男  
電話 0423-23-1111 Fax 0423-27-7705

#### ○ 視覚研究グループよりのお知らせ

・日本視覚学会 1994年夏期研究会の予定と講演募集  
期 日：1994年8月1日（月）～3日（水）  
場 所：石川島研修センター  
神奈川県綾瀬市小園 720  
電話 0467-78-3171  
小田急線・相鉄線の海老名駅からタクシー 7  
分，送迎バスあり。

内 容：  
 ■特別プログラム  
 • International Forum of Color 1994—  
 Color Appearance with Environment  
 招待講演  
 “Colour-order systems: Diversity and  
 congruence” (A. R. Robertson); “The eval-  
 uation of photometric and colorimetric  
 systems under different environment and  
 viewing conditions” (J. F. Verrill); Co-  
 operation of the achromatic and chromatic  
 systems in form perception” (Y. Ejima)  
 • シンポジウム「視覚による運動制御」  
 （近江政雄，金沢工大；五味裕章，ATR；  
 山口清子，都神経研）  
 • 研究動向（桜井研三，東北学院大；小田浩  
 一，東京女子大）  
 ■一般講演 特にテーマは限定しません。色  
 の分野に関する口頭発表・ポスター講演は  
 色の国際フォーラム（3号に案内掲載）で発

表されることをお薦めします。（国際フォー  
ラムの抄録受付締切：1994年4月30日）

講演，参加申込締切：1994年6月11日（土）  
参加費：一般会員 4,000 円，学生会員 1,000 円，  
一般非会員 7,000 円，学生非会員 2,000 円  
宿泊費（食費等込）：一般 22,000 円，学生 20,000 円  
申込・問合先：〒227 神奈川県横浜市緑区長津田町 4259  
東京工業大学総合理工学研究科内  
日本視覚学会事務局（内川恵二）  
電話 045-922-1111 内線 2521  
Fax 045-922-2666  
e-mail : vision@int.titech.ac.jp

#### ○ 日本光学会協賛の講演会のお知らせ

- 第13回レーザ顕微鏡研究会講演会  
 日 時：1994年5月13日（金）10:00～17:00  
 場 所：けいはんなプラザ住友ホール中会議室  
 主 催：レーザ顕微鏡研究会  
 内 容：レーザトラッピング・シンポジウム，生物医  
 学応用，その他  
 島津けいはんな研究所見学  
 参加費：会員 無料，非会員 2,000 円  
 参加申込：不要  
 問合せ先：〒619-02 京都府相楽郡精華町光台 3-9  
 （株）島津製作所けいはんな研究所  
 吉田多見男  
 電話 07749-5-1680 Fax 07749-5-1619
- 第2回 JCIE セミナー  
 日 時：1994年5月20日（金）13:00～17:00  
 場 所：電力館 TEPCO ホール  
 東京都渋谷区神南 1-12-10  
 電話 03-3477-1191  
 主 催：（社）日本照明委員会  
 テーマ：新しい照明の技術—国際的視点から  
 演題：「色差の評価法」，「屋内照明の不快グレア評  
 価に関する CIE の動き」，「新しい建築照明  
 システム，ライト・ガイド」，「HID ヘッド  
 ライトの国際動向」  
 定員：100名（先着順）  
 参加費：学生 3,000 円，会員 8,000 円，非会員  
 15,000 円  
 申込方法：申込書（様式自由）に氏名，勤務先，連絡先  
 住所および電話番号を記入し，参加費および  
 返信用封筒を同封の上郵送してください。参

加費は現金書留または定額小為替とし、返信用封筒には住所、氏名を明記し切手を貼ってください。

申込締切：1994年5月13日（金）

申込先：〒100 東京都千代田区有楽町 1-7-1

有楽町電気ビル北館 5階

(社)日本照明委員会事務局（担当：上村）

電話 03-3201-0645

#### ● 1994年光応用技術研修会

期　　日：講義—1994年5月31日（火）～6月3日（金）

6月6日（月）～6月8日（水）

計7日間

テスト—1994年7月7日（木）・8日（金）

計2回

場　　所：年金基金センターセブンシティ

東京都新宿区西新宿 4-34-1

主　　催：（社）日本オプトメカトロニクス協会

講　　師：辻内順平ほか 20人

教　　本：1組総貢約 1,800 頁

定　　員：200 名

問合せ先：〒105 東京都港区芝公園 3-5-22

機械振興会館別館 4階

（社）日本オプトメカトロニクス協会

電話 03-3435-9321 Fax 03-3435-9567

#### ● 第3回フォトニック情報処理研究会

日　　時：1994年6月1日（水）9：40～17：20

場　　所：東京工業大学長津田キャンパス

総合研究館大会議室

主　　催：電子情報通信学会フォトニック情報処理専門委員会

参 加 費：一般 4,000 円 学生 1,000 円

問合せ先：富士通研究所基盤技術研究所 和田 修

電話 0462-48-3111 Fax 0462-48-5193

東京大学工学部計数工学科 石川正俊

電話 03-3812-2111 Fax 03-5800-6969

#### ● 第13回光波センシング技術研究会

期　　日：1994年6月1日（水），2日（木）

場　　所：川崎市産業振興会館ホール（川崎市）

主　　催：応用物理学会・光波センシング技術研究会

演　　題：■特別セッション「エバネセント波の研究とその応用」約4件

#### ■招待講演

- ・ニアフィールド・オプティクス（河田 聰）
- ・高分解能カソードルミネッセンス顕微鏡に

よる量子構造界面評価（村下 達）

- ・石英系導波路型光回路2×16 スプリッタ  
(上塚尚登)

#### ■チュートリアル講演

光回路部品の基礎から最新動向まで  
(花房廣明)

#### ■一般応募講演

測量機器による3次元計測、人工衛星レーベル測距、TVシステムを用いた大型建造物計測、光ファイバ電流センシング、光双安定動作など。総計18件。

参 加 費：10,000～12,000 円、学生 3,000 円

申込・問合せ先：〒155 東京都世田谷区北沢 4-16-27

桜ハイツ 101 CFBC 気付

「光波センシング技術研究会」事務局

電話および Fax 03-3466-1899（福井）

#### ● 第31回全日本光学測定機展

期　　日：1994年6月8日（水）～10日（金） 入場無料

場　　所：パシフィコ横浜 展示場および会議センター  
神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1

主　　催：日本光学測定機工業会

併　　催：94 画像計測・検査機器展；光計測シンポジウム（6月8日）

連 絡 先：〒105 東京都港区芝公園 3-5-8

機械振興会館 204

日本光学測定機工業会

電話 03-3435-8083

#### ● JOEM 技術講座 0294

期　　日：1994年6月16日（木）、17日（金）、23日（木）、24日（金）

場　　所：機械振興会館別館

東京都港区芝公園 3-5-22

主　　催：日本オプトメカトロニクス協会

内　　容：光機器の光学I  
早水良定（光学技術コンサルタント）

定　　員：26 名

問合せ先：〒105 東京都港区芝公園 3-5-22

機械振興会館別館 4階

（社）日本オプトメカトロニクス協会

電話 03-3435-9321 Fax 03-3435-9567

#### ● 3次元画像コンファレンス '94

期　　日：1994年7月7日（木）、8日（金）

場　　所：工学院大学新宿校舎大講堂（0312 教室）

主　　催：3次元画像コンファレンス '94 実行委員会

(担当 テレビジョン学会)

参 加 費：協賛学会・研究会会員 9,000 円，  
非会員 12,000 円， 学生 4,000 円  
申 込 先：〒105 東京都港区芝公園 3-5-8  
機械振興会館内 209 号室  
(社)テレビジョン学会 3 次元画像コンファレンス '94 係  
電話 03-3432-4677 Fax 03-3432-4675

● Dr. R. W. G. Hunt 来日記念シンポジウム

日 時：1994 年 7 月 25 日（月）13：30～16：00  
場 所：富士写真フィルム（株）東京本社ホール  
東京都港区西麻布 2-26-30

主 催：日本写真学会・日本色彩学会

演 題：Colour Reproduction : Past, Present and Future

参 加 費：共催学会会員 1,000 円，協賛学会会員 2,000  
円，その他 4,000 円（ただし学生 1,000 円）

問合せ先：〒237 神奈川県横須賀市船越町 1-201-1  
東芝ライテック（株）研究所 一条 隆  
電話 0468-62-2073 Fax 0468-60-1205

### ○人 事 公 募

● 通産省工業技術院研究所の研究者募集

募集人員：約 30 名

募集分野：化学，物理，電子，機械等

応募資格：博士課程修了者または見込者（学位取得可能な者）かつ昭和 36 年 4 月 2 日以降生まれの者

給 与：243,900 円の基本額と諸手当

提出書類：履歴書，修了・成績証明書，修士および博士論文の要約，研究業績など

公募締切：平成 6 年 7 月 31 日（日）

採用予定日：平成 7 年 4 月 1 日（土）

選考方法：8 月～9 月上旬の予備審査，10 月上旬の最終審査で候補者を決定

そ の 他：公務員宿舍，有給・夏期休暇あり

連 絡 先：〒305 茨城県つくば市東 1-1-4

筑波研究支援総合事務所 研究企画調整官室

電話 0298-54-2170～2 Fax 0298-55-3833

**第19回光学シンポジウム（光学技術・学術講演会）**  
**「光学系および光学素子の設計、製作、評価を中心にして」**

光学シンポジウムを下記の要領で開催いたします。今年度も一般講演に加え、招待講演として各界でご活躍の方々をお招きし合計3件のご講演をお願いしております。さらに、今回は光設計研究グループによる Optics Design Problem Japan '94 の結果発表も行います。光学のみならず広い分野から積極的に参加していただき、活発なご討議をお願いいたします。

**日 時：**1994年6月9日(木)、10日(金) 9:30～17:00

懇親会：6月9日 17:30 より

**場 所：**東京大学 生産技術研究所 第1会議室(東京都港区六本木 7-22-1)

地下鉄千代田線乃木坂駅下車徒歩4分／地下鉄日比谷線六本木駅下車徒歩7分

**主 催：**日本光学会(応用物理学会)

**協 賛：**計測自動制御学会、情報処理学会、照明学会、電気学会、電子情報通信学会、テレビジョン学会、精密工学会、日本眼光学学会、日本機械学会、日本写真学会、日本分光学会、レーザー学会、日本色彩学会(依頼中)、日本オプトメカトロニクス協会、光産業技術振興協会

**参加費：**一般 5,000円、日本光学会会員 3,500円、学生(会員) 1,000円、応用物理学会・協賛学会会員 4,500円、賛助会員 4,000円、学生(会員外) 2,000円

(予稿集代を含みます。事前の参加申込は不要です。)

**《プログラム》**

**6月9日(木)**

—午前の部—(9:30～12:00)

開会の辞

1. 合致法による2波長半導体レーザー干渉計

職業能力開発大学校電子工学科 小野寺理文、石井行弘

2. 断面干渉縞解析による特殊トロイダル面の面精度測定装置

(株)リコー画像技術研究所 鈴木清三、須原浩之、佐久間伸夫

3. 集積化レーザー干渉計の電子ビーム測長機への応用

計量研究所 初澤毅、谷村吉久、豊田幸司、奈良誠、

(株)ニコン\* 豊永修司\*, 原信也\*, 岩崎裕隆\*, 近藤一彦\*

4. マイクロマシニングの光センサーへの応用 [招待講演]

NTT境界領域研究所 浮田宏生

昼休み(12:00～13:00)

—午後の部—(13:00～17:15)

5. New Applications and Developments in Precision Optical

Metrology [招待講演] CARL ZEISS Jena GmbH W. Harnisch

6. プロトン交換タンタル酸リチウム光導波路の光損傷の温度特性

東京大学生産技術研究所 近藤由紀子、杉本賢司、藤井陽一

7. LiNbO<sub>3</sub>導波路用グレーティングカップラの高効率化 富士写真フィルム(株) 砂川寛

休憩(15:00～15:15)

8. 光学における卒業研究についての一案 上智大学理工学部 石川和枝
9. ステッパー レンズの空中像評価装置 オリンパス光学工業(株) 研野孝吉, 大橋一司, 安垣誠人, 岡村俊朗
10. キノフォームを用いた可変収差発生光学系 筑波大学物理工学系 豊原裕一郎, 伊藤雅英, 谷田貝豊彦
11. 超高安定化レーザーを用いた超低損失ミラーの特性測定 電気通信大学レーザー極限技術センター 植田憲一, 上原 昇

**6月10日（金）****一午前の部—（9：30～12：10）**

12. レンズ自動設計の DLS 法における変数差分量の設定方法 キヤノン(株) 松居 寛
13. Advanced Optical System Modeling and Analysis with ASAP —Advanced Systems Analysis Package Breault Research Organization, Inc. Jay A. Tome
14. 私と光学—TV 用レンズからレーザー光学まで— [招待講演]

上智大学理工学部 龍岡静夫

15. Optics Design Problem Japan '94 結果発表 日本光学会光設計研究グループ

**◆ポスターセッション・ショートプレゼンテーション****昼休み（12：10～13：00）****一ポスターセッション—（13：00～14：30）**

- P 1. 反射型・結像方式スペックル速度センサーの開発 コニカ(株) 澤住庸生, 大石 篤, 前田元治
- P 2. 周期的入力に対する新奇性フィルターの応答 東京大学生産技術研究所, 上智大学理工学部\* 志村 努, 伊東裕一\*, 黒田和男
- P 3. グレーティングフィードバック高出力半導体レーザーを光源とした  
BaTiO<sub>3</sub> による二光波混合 千葉大学工学部画像工学科 尾松孝茂, 川崎和彦, 長谷川朗, 小倉磐夫

- P 4. Optics Design Problem Japan '94 応募データの総覧 日本光学会光設計研究グループ

**一午後の部—（14：30～16：30）**

16. 色収差係数の新しい計算方式 中川 Lens Design 研究所 中川治平
17. 防振光学系への収差論の応用 キヤノン(株) 木村研一, 秋山健志, 浜野博之
18. Zoom Lens for Camcorder Applications Using Axial GRIN Materials  
Breault Research Organization, Inc. Jay A. Tome
19. ゾルゲル法による負屈折力型 r·GRIN レンズの作製 オリンパス光学工業(株) 森田祐子, 小池 尚, 野田 聰

**閉会の辞**

◇ 6月9日講演終了後, 懇親会を開催いたしますので多数ご出席ください.

◇ 6月10日（12：00～14：30）に様々なタイプの光学系設計ソフトウェアのデモンストレーションを実施します.

問合せ先 〒192 東京都八王子市石川町 2970

コニカ(株)オプト事業部光学開発センター 中野 智史  
電話 0426-42-0161 Fax 0426-44-5212

## 第31回サマーセミナー (1994年)

### 「マルチメディア時代における光技術の役割」

最近の新聞紙面には毎日のように、「1994年はマルチメディア元年」、「マルチメディア市場は2010年に123兆円規模」といった“マルチメディア”という言葉が躍っています。その一方で、「マルチメディアは言葉先行で、実体がわからない」という発言も耳にしますが、マルチメディアの持つ潜在能力は計り知れないものがあり、21世紀には多くの産業がマルチメディアと関わりを持つことになると思われます。このようなマルチメディアのハードを構成する技術として、ボードカメラ、超高速光通信機器、光インターフェクション、光ディスクレコーダー、ヘッドマウントディスプレイ(HMD)、立体ディスプレイなど多くの光技術が期待されています。これらの光技術がマルチメディア市場の1割を占めるだけでもかなりの産業規模になり、マルチメディアに積極的に関わることによって、光産業はさらに発展すると考えられます。

そこで、今年のサマーセミナーでは「マルチメディア時代における光技術の役割」をテーマとして取り上げることにしました。マルチメディアに関する講演会はすでに数多く行われていますが、光技術の観点からのものはこれまでありませんでした。今回のセミナーでは、まずマルチメディアの分野でご活躍中の方々を講師にお招きし、マルチメディアの概要と基本技術をご講義いただい、マルチメディアの全体像を把握し、その後、光の分野でご活躍中の方々からマルチメディア用光技術の現状と将来性についてご講義いただきます。

このセミナーは、光産業に携わっておられる方々にとっては、マルチメディアに関する理解を深め、将来の事業の芽を見出す絶好の機会であり、電子・情報・通信の立場からマルチメディアに携わっておられる方々にはマルチメディア用光技術に関する理解を深めるよい機会であると確信します。将来の光産業やマルチメディア産業を担われる若い方々を始め、これから社会で活躍される学生の方など多くの方々のご参加を歓迎します。

**主 催:** 日本光学会（応用物理学会）

**協 賛:** 計測自動制御学会、情報処理学会、精密工学会、テレビジョン学会、電気学会、電子情報通信学会、日本オプトメカトロニクス協会、日本写真学会、光産業技術振興協会、レーザー学会、日本色彩学会、日本眼光学学会（依頼中）

**期 日:** 平成6年8月24日（水）、25日（木）、26日（金）

**場 所:** 浜名荘 静岡県浜名郡舞阪町舞阪（電話 053-592-0668）  
(JR 弁天島駅より徒歩15分)

**プログラム:**

月日	時刻	講 演 題 目	講 師
8/24 (水)	13:00 18:00	1. マルチメディアへの誘い—コンピューターの新しい未来像— 2. マルチメディアの基本技術と光に寄せる期待 (1)バーチャルコミュニケーション 「特別講演」 メディアアート（ニューロベビー）	斎藤隆弘（神奈川大工） 原島 博（東大工） 土佐尚子（武藏野美大）
	18:30	～20:30 懇親会	
8/25 (木)	8:45 18:00	(2)次世代情報通信網（情報ハイウェイ）と光通信技術 (3)画像符号化と画像プロセッサ	石尾秀樹（NTT伝送研） 西谷隆夫（NEC）

		(4)マルチメディアヒューマンインターフェース 3. マルチメディア時代の光技術 (1)ボードカメラ用ズームレンズの低価格化・小型軽量化	遠藤隆也 (NTTアドバンステクノロジー) 宮前 博 (コニカ)
8/26 (金)	8:45 15:00	(2)多チャンネル映像伝送用光デバイス (3)画像プロセッサと光インターフェクション (4)光ディスクレコーダ (CD-ROM, CD-R, フォトCD) (5)コンタクトレンズの超精密加工技術と立体ディスプレイ装置への応用	朝倉宏之 (松下電器) 石川正俊 (東大工) 後藤顕也 (東海大開発工) 稻田幸一 (メニコン)

【上記プログラムは講師の都合により順番を変更することがあります。】

#### 参 加 費: (テキスト, 消費税を含む)

一般 ¥33,000 応用物理学会および協賛学協会会員 ¥31,000

日本光学会会員 ¥30,000 学生(会員) ¥10,000 学生(非会員) ¥12,000

[注] (1)賛助会社の方は会員扱いとします。(光学賛助会員、および応物賛助会員は参加申込者のNo.欄に会員番号の代りに賛助とご記入ください。なお、ご記入の際には、光学誌および応物誌の賛助会員欄をご参照ください。)

(2)65歳以上の日本光学会会員には参加費の割引きを検討しています(会社の方は除く)。下記担当幹事までお問合せください。

(3)浜名荘宿泊者以外で懇親会に参加希望の方は別途 ¥4,000(予定)を会場にてお支払いください。

申込手続き: 参加費を、参加者名で下記口座にお振り込みください。同時に所定の申込用紙(本号巻末綴込み)を、応用物理学会日本光学会セミナー係宛て送付ください。入金確認順に受講通知をお送りします。申込み後の取消し、不参加の場合にも払い戻しはいたしません。

〈会社などの経理担当の方へ〉 必ず参加者名で振り込んでください。会社名義の総合振込をしないでください(参加者名が不明となります)。請求書の事前発行はいたしません。

申込締切り: 平成6年6月30日(木)(ただし期限内でも100名に達しましたら締ります。)

申込先: 〒102 東京都千代田区九段北 1-12-3 九段北ビル

応用物理学会内 日本光学会セミナー係 電話 03-3238-1043

送金口座: さくら銀行 本店営業部 普通預金口座 3133847

応用物理学会日本光学会セミナー係(略称 コウガクセミナー係)

(応用物理学会の口座とは異なりますのでご注意ください。)

宿泊: 24日、25日の宿泊は浜名荘(2泊食事付19,000円程度)をお世話します。ご希望の方は申込書にご記入ください。宿泊料は登録の際、現地でお払込みください。なお、浜名荘は1室4~5名の相部屋で個室はありません。また、予定の変更はお引受け致しかねます。

交 通: 列車時刻、地図等は参加申込者に8月中旬までにサーチュラーでお知らせいたします。

問合せ先: 浜松ホトニクス(株)中央研究所 原 勉

電話 053-586-7111 Fax 053-586-6180

日本電気(株)研究開発グループ 西田信夫

電話 044-856-2104 Fax 044-856-2397